様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２５ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2014～2015
課題番号：２６８８４００５

研究課題名（和文）新聞メディアからの明治前期思想研究の再検討――福地源一郎を中心に

研究課題名（英文）A review of the study on thought of early Meiji era from newspapers : with a focus on Genichiro Fukuchi

研究代表者
岡安　儀之（OKAYASU, Noriyuki）

東北大学・文学研究科・専門研究員

研究者番号：５０７３２３５１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究のテーマは、「新聞メディアからの明治前期思想研究の再検討――福地源一郎を中心に」である。具体的には、明治を代表する知識人の一人であった福地を思想形成期にまで遡り分析を行い、同時代の知識人との比較を行うことで、その思想の独自性に迫った。
さらに、日本の新聞の発達を考える上で、重要な黎明期にあたる明治前期において、この分野でパイオニア的役割を果たした福地が、新聞という西洋由来の政治文化をどのように認識していたかを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The theme of this study is "A review of the study on thought of early Meiji era from newspapers — with a focus on Genichiro Fukuchi." Specifically, I did an analysis of Fukuchi, who is one of intellectuals representing the Meiji era, going back to the thought formation stage. Through comparison with other contemporary intellectuals, I revealed his distinctiveness.
Fukuchi played a pioneering role in developing newspapers in Japan. I also clarified how he had recognized the political culture of newspapers from the West in the Meiji era, the important earliest days in consideration of the development of newspapers in Japan.

研究分野：人文学

キーワード：日本思想史　メディア史　国民国家　文明　福地源一郎　福沢諭吉　ジャーナリズム　デモクラシー

１．研究開始当初の背景

従来の明治前期思想の研究において、新聞や新聞記者は枝葉の存在であった。やはりその中心は、「啓蒙」や「民権」と名の付くような著名な思想家と呼ばれる人物であり、またそれらが集い意見し合う学術や政治に関する結社であった。なかでも福地源一郎（桜痴、1841～1906）は、先行研究において、「御用記者」・「官権派」・「漸進主義者」などと位置付けられ、これまで積極的に考察されることはほとんどなかった。

仮にあったとしても、その研究は、川辺真蔵『福地桜痴』（三省堂、1942 年）、田村寿「福地桜痴」（『三代言論人集 第三巻』時事通信社、1962 年所収）、柳田泉『福地桜痴』（吉川弘文館、1965 年）、小山文雄『明治の異才　福地桜痴』（中央公論社、1984 年）などのような歴史に埋もれた福地の功績を掘り起こそうとする伝記的研究が中心であり、彼の残した新聞論説を精査し、その思想的営為に迫ったものは少なく、長らく坂本多加雄「福地源一郎の政治思想――「漸進主義」の方法と課題」（『思想』657 号、1979 年）がその代表とされてきた。

本研究は、先行研究のように、福地に対して「御用記者」、「官権派」、「漸進主義者」などといった一つの枠組みで捉えることはしない。これまで図らずも光りを浴びることの少なかった彼の新聞論説を詳細に検討することで、むしろ、そういった平板な枠組みを解体していくことを目的としている。

それはつまり、別の言い方をすれば、福地をこれまで無視し続ける原因となってきた、戦後歴史学にまで脈々と受け継がれる進歩史観のもたらした問題点を明らかにすることでもある。

２．研究の目的

本研究は、明治前期の言論界において福沢諭吉と並び称されながらも、これまで等閑視されてきた新聞記者福地源一郎の思想に光を当てることで、明六社や自由民権運動を中心に構築されてきた従来の明治前期思想研究の枠組みに、新たな展望を切り開くことを目的としている。

さらには、明治のメディアを空間的に考察することで、社会における「知」のあり方や「知」の交流のあり方を当時の人々がどのように考えていたのかという問題を解明し、相互の人的・思想的連関の中から明治思想史の全貌を動的、かつ俯瞰的に提示することを目指している。

以上のような目的を達成するため、まず福地源一郎研究の基盤を構築することに力点を置き研究を進めた。

３．研究の方法

（１）基礎資料など文献の収集

福地源一郎に関する資料をある程度まとまった形で所蔵している場所としては以下のものがある。

①福地の出身地である長崎にある長崎歴史文化博物館。
②遺族により寄贈された資料を保管している日本近代文学館（福地桜痴文庫）。ここには、幕末から明治初年の日記類や、著書など３８９点を収蔵している。
③代表的な福地研究の第一人者である柳田泉が集めた資料を有する早稲田大学図書館（柳田泉文庫）。ここには幼年期に福地が記した『星泓雑著』をはじめ、大隈重信宛の福地源一郎書簡などがある。
④福地と密接な関係にあった渋沢栄一の関係資料を保管している渋沢栄一記念財団渋沢史料館。ここは、希少な福地源一郎の書簡を保有している。
⑤東北大学附属図書館には、思想形成期の福地を分析する上で貴重な資料となる福地万世（源一郎）著『(「門」の中に「韋」)記』巻２（狩野文庫）と『続（「門」の中に「韋」）記』巻２がある。
⑥その他、関連する新聞資料は、東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター（明治新聞雑誌文庫）が多く所蔵している。

本研究では、これら日本全国に分布している関係資料の実地調査を計画している。活字化されていない資料はもとより、すでにデジタル化・活字化された資料も必要に応じて調査し、写真撮影や複写などによって研究に必要なデータを網羅的に収集する。

また、当時の社会が直面していた問題を知る上で、重要になってくる新聞紙上での論争などは、複数の新聞を分析しなければ、その全貌を理解することはできない。こうした問題意識をもとに、必要に応じて他紙の収集も積極的に行い、明治言論界の全体像に迫る。

さらに、当時の『東京日日新聞』の紙面には、欧米の新聞を翻訳した記事も掲載されている。こうした記事のソースも可能な限り調査収集し、研究の素材とすることで、福地源一郎の西洋思想受容の問題に迫るとともに、その言論活動を総合的かつ多角的に分析する材料とする。

（２）分析と考察

①収集した資料を分析し、その背後にあるイデオロギーの解明を行う。これまでの研究で、福地が時に「文明」を自明なものとせず、それを相対化する視野を持っていたことを明らかにしてきた。このことは、彼が当時広く社会を席巻していた文明論的思惟様式の欺瞞性を見抜く視座を有し、同時

代の知識人の中にあって、極めてイレギュラーな存在であったことを証明するものである。つまり、『東京日日新聞』という当時の言論界を代表する新聞において、これまでの明治思想研究が描いてきた「文明」理解とは、異質な発言を福地が行っていた点に注目し、その内実にまで掘り下げて検討することで、今後の当該分野の研究進展に大きな力を与えると言えるのである。具体的には、同時代（福沢諭吉などの明六社同人）や次世代（民友社同人など）の思想家との比較を行うことで、教科書的な時代区分に限定されない、新たな明治思想の潮流を描く。

②これまで申請者が収集し整理してきた資料データと併せて、『東京日日新聞』における福地源一郎の執筆記事目録とその他の著作目録を作成し、今後の福地源一郎研究の基盤を作り上げ、他研究者に裨益する情報を提供できるようにする。執筆記事目録に関しては、福地が『東京日日新聞』に入社した明治７年から作成する。

③こうして得た知見をさらに広げるため、歴史学・政治学・日本文学などの学会や研究会に参加し、情報交換や問題意識の共有、そしてその深化に努める必要がある。

このような作業を通じ、資料の分析・考察を進めることで、明治思想史研究における福地源一郎の可能性を解明する。

（３）成果の公開

収集した資料をもとに作成した論文（著作目録、翻刻資料なども含め）は、学術雑誌などに発表し随時公開していく。また、日本思想史学会、日本思想史研究会、日本文芸研究会、メディア史研究会などへの参加、またはそこで報告することを通して、幅広く本研究の成果を共有できるようにする。

４．研究成果

以上のような研究を通して、新聞記者福地源一郎を射程に入れた明治思想史、及びメディア史の潮流をある程度示すことができた。

これまでの研究が描いてきた福地の「御用記者」・「官権派」・「漸進主義者」などといったネガティブで一面的な評価は、今後見直されるべきである。その意味で本研究は、その基盤を示すことができた。詳細については、以下の通りである。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

①<u>岡安儀之</u>、「書評 奥武則『ジョン・レディ・ブラック――近代日本ジャーナリズムの先駆者』、『メディア史研究』第 39 号、2016 年 2 月、査読有、141-149 頁。

②<u>岡安儀之</u>、「福地源一郎の自治論―福沢諭吉との比較を中心に―」、『近代日本研究』第 31 巻、2015 年 2 月、査読有、131-164 頁。

〔学会発表〕（計３件）

①<u>岡安儀之</u>、「色川大吉『北村透谷』について」、第 2 回東アジア〈霊性〉・〈平和〉研究会、2016 年 3 月 31 日、東北大学川内キャンパス。

②<u>岡安儀之</u>、「鈴木啓孝『原敬と陸羯南――明治青年の思想形成と日本ナショナリズム』へのコメント」、日本思想史研究会 2 月特別例会、2016 年 2 月 15 日、東北大学川内キャンパス。

③<u>岡安儀之</u>、「福地源一郎とジョン・レディ・ブラック――先駆的新聞人における近代日本とメディア」、日本文芸研究会平成 27 年度第 1 回研究発表会、2015 年 9 月 12 日、東北大学川内キャンパス。

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

岡安　儀之（OKAYASU Noriyuki）
東北大学・大学院文学研究科・専門研究員
研究者番号：50732351

(2)研究分担者

(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者

(　　)

研究者番号：